

高等学校

平成 7 年 度

教育研究員研究報告書

国 語

東京都教育委員会

平成7年度

教育研究員名簿

学区	学 校 名	氏 名
1	都立芝商業高等学校	雨 海 博 英
1	都立赤坂高等学校	小 林 恵 子
1	都立日比谷高等学校	坂 上 眞 佐 之
2	都立砧工業高等学校	牛 山 睦 子
2	都立烏山工業高等学校	武 山 恭 一
3	都立豊多摩高等学校	保 坂 吉 則
4	都立北高等学校	田 中 忍
5	都立上野忍岡高等学校	鶴 田 秀 樹
6	都立篠崎高等学校	渡 辺 恭 子
7	都立忠生高等学校	菅 野 章 子
7	都立町田工業高等学校	佐 藤 和 彦
7	都立山崎高等学校	小 林 正 人
7	都立小川高等学校	青 田 一 志
10	都立府中東高等学校	丹 治 芳 男

担当

教育庁 指導部高等学校教育指導課 指導主事 菅 沢 茂

研究主題

社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する指導の在り方

目 次

I	主題設定の理由	2
II	主題解明の方法	3
III	指導の実際	4
1	様々な視点を身に付けることで社会の変化に 主体的に対応できる能力を育成する現代文指導の工夫	4
2	「男女の愛」をテーマとして、社会の変化に 主体的に対応できる能力を育成する古典指導の工夫	10
3	言葉を見つめ直すことにより、社会の変化に 主体的に対応できる能力を育成する現代語指導の工夫	18
IV	まとめと今後の課題	24

〔社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する指導の在り方〕

I 主題設定の理由

戦後50年の節目を迎えようとしている現在、学校教育に携わる者として我々はかつて経験することのなかった社会の厳しい変化の中に身を置いている。高齢化社会の到来や学習機会の多様化の中で生涯学習の必要性はより一層高まっている。また、コンピュータなどの電子機器の発達をきっかけとしたマスメディアの展開は、情報化社会の急速な拡大と高度な進展を生み出している。さらに、国や人種を超えた交流は国際化の進展をもたらした。このような社会環境の急激な変化を前にして、我々は現在まで培ってきた価値観を見直し、再構築することを迫られている。

こうした中で現代を生きる高校生は、複雑で混沌とした環境にもまれながらも逞しく成長している。彼等は情報に敏感に反応し、巧みにそれを取り入れている。言語の世界においても柔軟な感性で独特の表現や言い回しを生み出している。例えば、ゲンチャリ（原動機付自転車）、ヤンママ（新しいタイプの若い母親）など、若者の日常会話に次々と造語が生まれてくる。

その一方、若者の没个性的な均質化の傾向も指摘されている。例えば、自己主張を避け、自分の気持ちにそぐわなくとも集団の中に我が身を置いて、安心を得たいという意識も見い出せる。また、学習面に限らず、言語生活の場面においても、社会のめまぐるしさに比べてそれを表現する言語が類型的であり、語彙不足を指摘する声もある。

これらの事柄を考え合わせるとき、「予定調和説」に見られるような価値観では、現実社会に対応し切れないと言えよう。したがって、現在の学校教育においては、異質と感じられることでも、それをいたずらに拒絶することのない深い懐をもち、激しい社会にも自ら対応することのできる「足腰の強い生徒」の育成が、早急に求められている。そこでは、自他の個性を共に認め合い、尊重し合う抱擁力ある人格の育成が大切である。互いに意見を述べ合い理解し合う場面を数多く設定し、主体的な態度を育てることが必要である。

そのためには、優れた言語能力を身に付けることが大切である。理解は言語を支えとして成り立つものであり、互いに意見を交わして成長していくことも言語によって築き上げられる。言語能力の向上を図ることは、生徒がより優れた人格を形成していくことの最も基本的な姿勢であり、これを通じて生徒一人一人の個性が伸ばされ、主体的に行動する態度が養われるものとする。同時に、永い伝統である黒板や講義を中心にした授業形態にこだわることなく、生徒の創造力をはぐくむ授業の展開も強く求められている。生徒が意欲をもって学習に参加し、自分の考えを深めていくこと、このことがさらに次の学習に発展・深化されていくような学習活動の工夫が求められている。

これらの点を考慮した上で、上記の研究主題を設定した。「社会の変化に主体的に対応できる能力」とは、「適応力」を意味しているのではない。どのような状況下でも自分らしさを見失うことがないよう心掛けることである。また、適切に理解し的確に判断する「自分というもの」をいつも心に留めていく態度だと考える。

言語活動を通じて自分の個性を生かし、主体的に生きていく。常に自己教育力を発揮できるように、豊かな言語能力と創造力とをはぐくみ続ける。今回の研究主題は、このような熱意をもつ生徒の育成を実現するため、指導と評価の改善を意図したものである。

II 主題解明の方法

標記の主題及び授業実践の意図を実現するために、今年度の研究員は現代文・古典・現代語の3班に分かれて研究を進めた。今年度は特に、授業の流れをさらに理解しやすいものとし、授業のイメージ化に役立てるため、指導計画の形式を各班ごとに検討し、工夫をこらした。

「現代文班」は、主体的に対応できる能力は、「読む・書く・聞く・話す」という言語事項の基本を複合していく学習から、育成できると考えた。

具体的には、『舞踏会』という小説を手掛かりとして、自らテーマを設定して調べ発表する。そして、生徒同士が互いの観点を整理・発表し、理解する活動を計画した。そのため、最も身近な話題を設定でき、生徒が積極的に参加して多様な展開を引き出せるよう、グループ学習を基本とした。自由な発想や多角的な情報収集と分析に基づいて理解を深め、自他の「様々な視点」を把握することで、自らを見つめてゆく手掛かりを得られると考えたからである。

まとめとして、今回身に付けた「ものの見方」により、他の教材の読解を試みた。

「古典班」は、古文では『梓弓』を、漢文では『朱買臣の妻』を教材として選んだ。両作品とも「男女の愛」という普遍的なテーマをもとにしており、生徒たちの関心と意欲的な態度を維持できると考えたからである。授業の形態としては、導入部において、プリントによる個別の学習により各自に物語のあらすじや内容を理解させ、その後、グループ学習を行わせることにした。また、話し合いを中心としたグループ学習を通して、生徒の思考力・創造力を伸ばすよう努めた。話し合いの中で、他者の意外な視点に出会い、自分の考察を深めることに役立つからである。具体的には、古文では『梓弓』の登場人物の心理を自分たちで解釈させ、それを基にしてシナリオを作成し発表させた。漢文では、一つの議題について正反対の意見を考えさせ、ミニ討論をさせた。このように様々な形で音声言語・表現活動・内容理解の多面的な視点から取り組ませることを試みた。また評価として、指導者による授業中の学習過程の評価に加えて、生徒の自己評価も取り入れた。自己評価の扱いについては特に工夫をこらし、生徒自らにこれまでの作業を確認させることにより、授業が生徒一人一人の意識の中に根付くよう留意した。

この学習を契機として、生徒が関心と意欲を示し、自ら考え判断していく中で、様々な発見、視野の拡大を図り、多様な価値観を受け入れていくようになれば、自らの生き方を見つめ直し深化させることにつながると考えた。

「現代語班」は、新設科目「現代語」の趣旨を生かし、既存の形態・方法・教材にとらわれることのない授業計画の立案に主眼を置いた。具体的には、まず最初に、言語や言語活動に対する生徒の関心・意欲を高めるために、若者の言葉遣いに関する複数の文章を同時に読ませ、各自の意見を表明させた。次に、自らの言語生活を振り返らせた後に、生徒自身による「現代の若者言葉」の調査、並びに調査結果の分析を行わせた。また、古典作品等にも言及しつつ、共時的あるいは通時的に日本語を多角的に見つめ直すことにより、言語の多様性と流動性を認識させた。さらに、演習（「ロールプレイング」・「外国映画の吹き替え」）を通して、目的や場面に応じた話し方や言葉遣いを身に付けさせることを試みた。

最後にこれまでの学習活動を踏まえて、将来にわたって言葉の変化にどのように対応してゆくべきかを文章化させ、本単元のまとめとした。

Ⅲ 指導の実際

1 様々な視点を身に付けることで、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する

現代文指導の工夫

1. 単元 様々な視点に立って考える
2. 教材 『舞踏会』芥川龍之介
3. 単元の目標
 - ① 多角的に収集した情報の中から、必要な資料を適切に選定する能力を養う。
 - ② 調査を通して、自己及び他者の視点や思考などを包括し、総合的な思考力・判断力を養う。
 - ③ 発表を通して、様々な視点や思考の相違を理解し、尊重する態度を養う。

4. 単元設定の理由

21世紀を間近に控え、社会の変化はますますその速度を増してきている。このような中、私たちはそれぞれの置かれた状況に応じて、激しい社会の変化に一層主体的に対応していかなければならない。ここでは、「社会の変化」を、主に「国際化」・「情報化」・「高齢化」という3つの側面からとらえることとした。以下、それぞれの側面から、研究主題とのかかわりについて述べる。

【国際化】 「国際化」という語は様々な含みをもつようだが、ここでは、多様な文化の交流の中で互いの考え方を尊重するという面からとらえている。現在、街中で外国人と出会うことは珍しいことではない。英語の授業でも外国人英語等教育指導員等から学ぶ機会も増えている。しかし、出会う機会は増えても、そこに文化的な交流がなされているかどうかは疑問である。多くの場合、外国人は高校生にとっても依然として風景的な存在でしかない。国際化では、何よりも、自他の文化をお互いに認め合い、尊重し合いながら理解を深めていくことが大切である。それは、異なる文化を無批判的に取り入れたり、自分が理解できないことを理由に、相手を一方的に否定したり、自らを優位に考えたりすることではない。自分とは異なるものの見方や考え方に会うことにより、自らの視野を広げ、認識を深め、思考を豊かにしていくこと、それは人間としての成長の一過程でもある。他者との出会いを通して、各個人のもの見方・感じ方が普遍的なものではなく、数ある視点のうちの一つに過ぎないということを実感していく、その過程を大切にしたい。

【情報化】 学校にパソコンが導入されて久しい。若年層への情報機器の定着はますます著しくなっている。いま高校生の間ではポケットベルが流行し、中には携帯電話を持つものさえ出始めている。しかし、それらは仲間内の饒舌な会話の延長であって「糸電話遊び」に等しいものである。いわば閉鎖された関係内で密かな情報を共有する遊びであり、社会へ向けて情報を発信する行為にはいまだなりえていない。しかし、情報化社会は、仲間同士が情報を交換し合い、共有し合うことを認めながら、社会へ向けて個人の有益な情報を発信する姿勢を求めている。また、同時に日常生活の中には多種多様の情報があふれ、必要な情報を収集・選択し、かつ活用する力がない者にとっては生きにくい状況である。このように多量の情報が氾濫する中で、私たちは、有益な情報を適切な方法で入手、精選し、必要があれば自分のもつ情報を他へ

向けて発信していくという、積極的な姿勢がますます必要となってきた。

【高齢化】 高齢化の進行とともに、生涯学習の必要性が高まっている。しかし、多くの生徒は、「学ぶ」のは在学中だけのことで、生涯にわたる行為ではないと考えている。「何を学ぶか」「いかに学ぶか」といった、学習の「目的」や「方法」についてではなく、「進級・卒業・進学する」こと、あるいは「資格を得る」ことといった「結果」のみに固執している者が多い。高齢化にともなって人生が長期化していく中、学校教育の場では、結果だけでなく、目的をもって主体的に学んでいく「姿勢」や「方法」についても、身に付けさせる必要がある。学校を卒業して社会に巣立っていく生徒にとって、生涯にわたって学び続けていく基礎となるような学習体験が何より望まれるからである。

以上、社会の変化と高校生の現状を踏まえて、これらの課題を国語の授業を通して解決していく試みとして、「様々な視点に立って考える」という単元を設定した。教材を「様々な角度」から読み、読み方にも「様々な方法」を生徒自ら発見していくことによって、自らのものとの見え方が一面的であることに気付かせ、学習の過程の中で、学習の方法や情報の扱い方などについても意識を深めさせることができると考えたからである。

そのために、一斉授業による講義形式中心の授業ではなく、班別調査・発表を軸とした授業計画を立案した。そこでは、班という単位で調査・発表を行うことにより、調査・発表に関する方法の相違、自分と他の班員との視点の相違、自分の班と他の班との視点の相違等を体験させることを意図している。また、それは主体的な学習の「姿勢」や「方法」、「多様なものとの見え方」など、上記に提起した複数の課題を解決することにつながっていく。

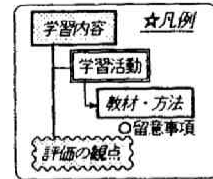
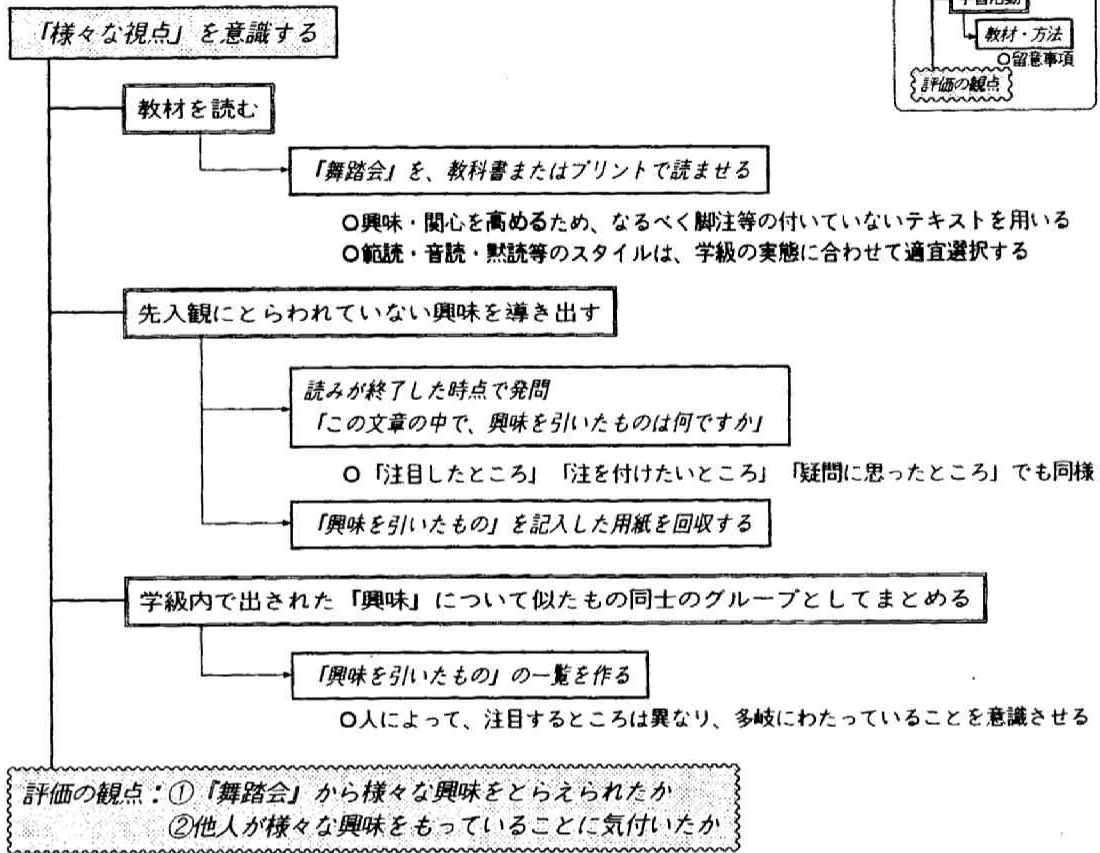
教材は単元との関連を踏まえ、生徒の成長、発達段階に応じて、教材の長短、表現内容、筆者の知名度などを考慮した上で、芥川龍之介作の『舞踏会』を選んだ。この作品は、時代の変遷による価値観の相違や時代の比較などについて、生徒自身が多くの視点から積極的に取り組むことができる。また、明治の一時期を考えることにより、現代社会の状況に対しても興味を抱くものと思われた。さらに、『舞踏会』を「小説」という観点からだけ読むのではなく、明治文化の一面を描いた文章としてとらえることによって、登場人物の心理面に目を向けがちな読み方から、「様々な視点に立って」読むという可能性に着目したためである。

なお、一つの文章を、心理的、文化的、歴史的、政治的といった、多面的な角度から扱ってみることを試みたため、授業計画では他の教材をとりたてて例示しなかった。だが、「現代文」という科目は、近現代の幅広い分野の文章を扱う科目である。社会現象を教材として取り込み、多方面の分野と密接に関連させながら、幅広く学習活動のできる性格をもっている。そういった意味では、『舞踏会』だけでなく、日本語で表現されたあらゆる分野の文章について「様々な視点に立って考える」ことが可能だろう。

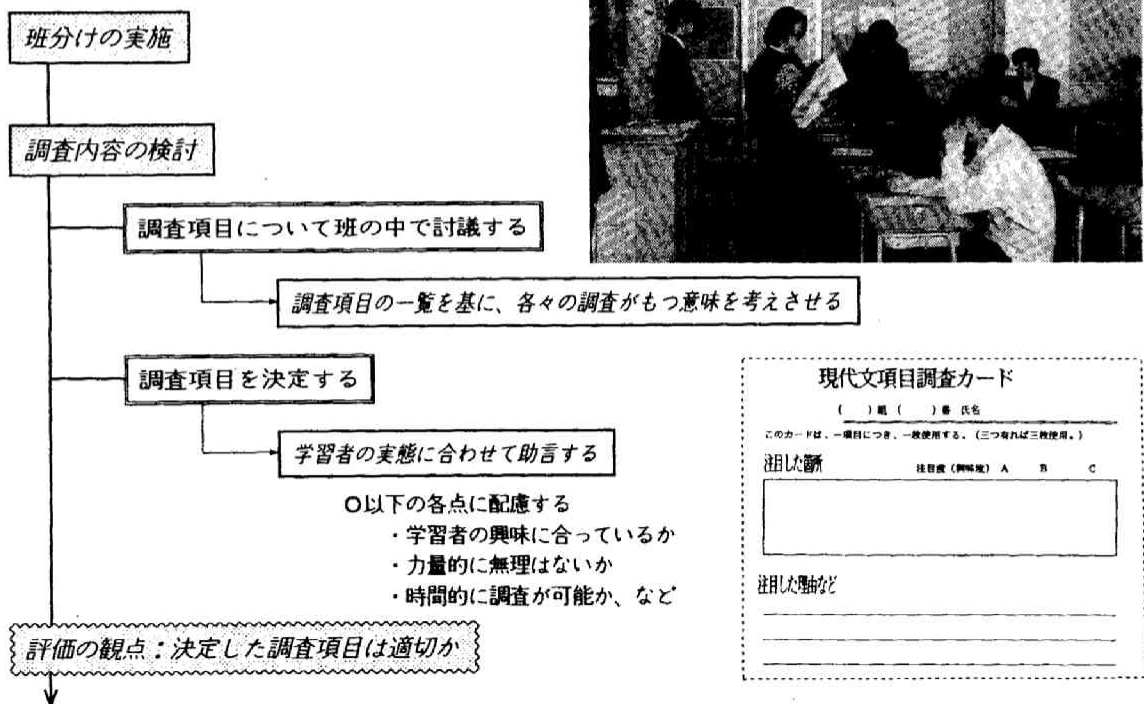
本単元の設定に際しては、「国語」という教科の中での「現代文」にとどまらず、文字どおり社会性を帯びた現代文理解につながる可能性をも考慮に入れた。このため、他の教材例として吟味したものの中には、『舞踏会』の発展として『江戸の舞踏会』（ピエール・ロチ）、単元設定を考える上で候補とした『創造性としてのレトリック感覚』（佐藤信夫）及び『星の王子さま』（サン・テグジュペリ）が挙げられる。また、『掛橋／八橋』『通潤橋』（上田篤）についても、文化論としての発展を意図として、教材の候補に挙げ、検討を加えた。

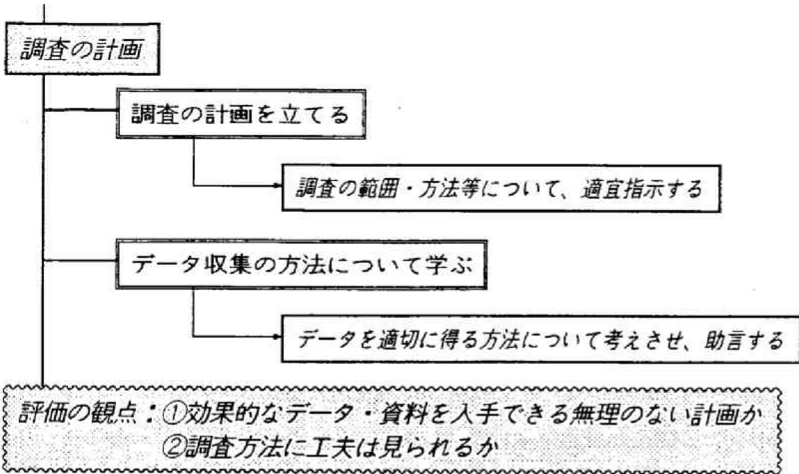
5. 指導計画（2・3学年対象 配当時間11時間+α）

《第1次 導入》（1・2時）



《第2次 準備》（3・4時）





『第3回』大賞 アドバイス票

第3回の今後の発展のため、アドバイスをお願いします。
資料のわかりやすさ以外にも、発表自体のチェックが大切です。(A~C)

助言者氏名

目的の付けどころと記号の意味→ ○とてもよく良かった、★一番の、◎思いがけず、まねやを売った、↑もうちとく調べてほしい。

A 題材の話しき(おぼろげにこまごまらりしているか)
B 資料のわかりやすさ(ムダにゴチャゴチャしていません、工夫されているか)
C 発表者の話し方は聞きやすかったですか(聞き一問一答の大きさなど)

①『蒼龍』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

②『藤』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

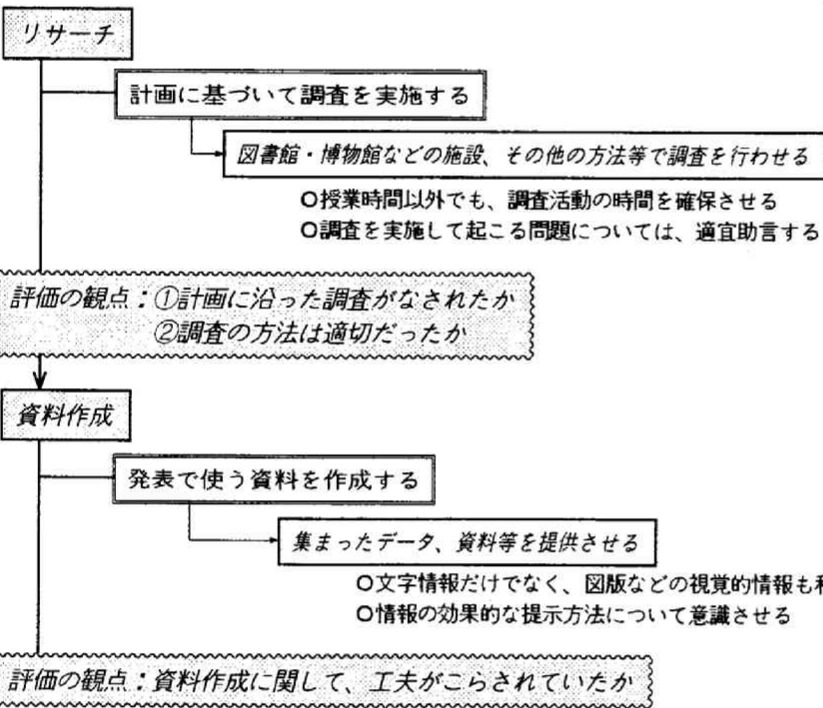
③『ほおずき提灯』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

④『アイス』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

⑤『鹿鳴館』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

⑥『舞踏会』調査隊の発表へのアドバイス
A() B() C()

《第3次 調査》(5・6・7時 及び授業外活動)

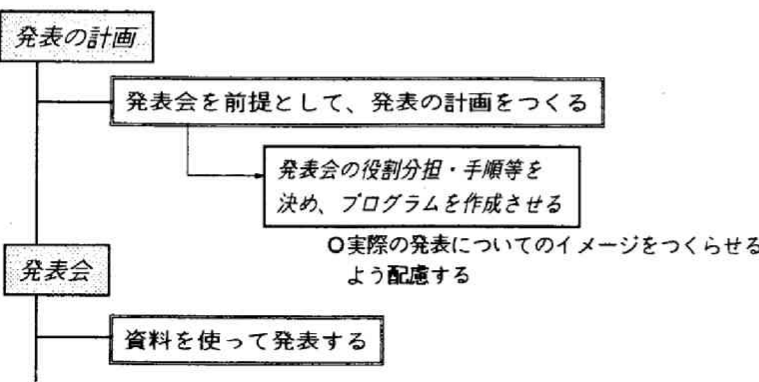


M1は「調査の達人」?

「わからないことの調べ方」について、考えられる方法を挙げてもらいました。掲載は以下のような具合。

調べ方	調べ方	調べ方
辞書で調べる	インターネットで調べる	調べた内容をまとめる
人に聞く	人に聞く	人に聞く
テレビで調べる	テレビで調べる	テレビで調べる
雑誌で調べる	雑誌で調べる	雑誌で調べる
新聞で調べる	新聞で調べる	新聞で調べる
インターネットで調べる	インターネットで調べる	インターネットで調べる
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く
人に聞く	人に聞く	人に聞く

《第4次 発表》(8・9時)



『第3回』大賞 発表会プログラム

では、発表会です。持ち時間45分15分。
資料等うまく利用した、わかりやすい発表をお願いします。

1995.11.27 (月) 第6限

① 蒼龍(中国の国旗) について
青木・丹之上・中村・山田

② 藤(まがき) について
五十嵐・後藤・豊村・山本・吉岡

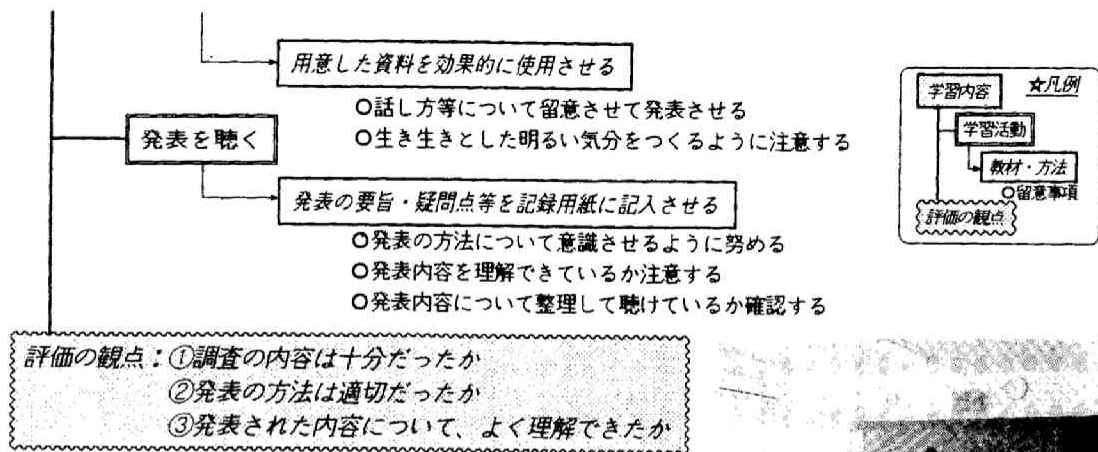
③ ほおずき提灯について
小沢・川上・橋本・田中

1995.11.30 (木) 第3限

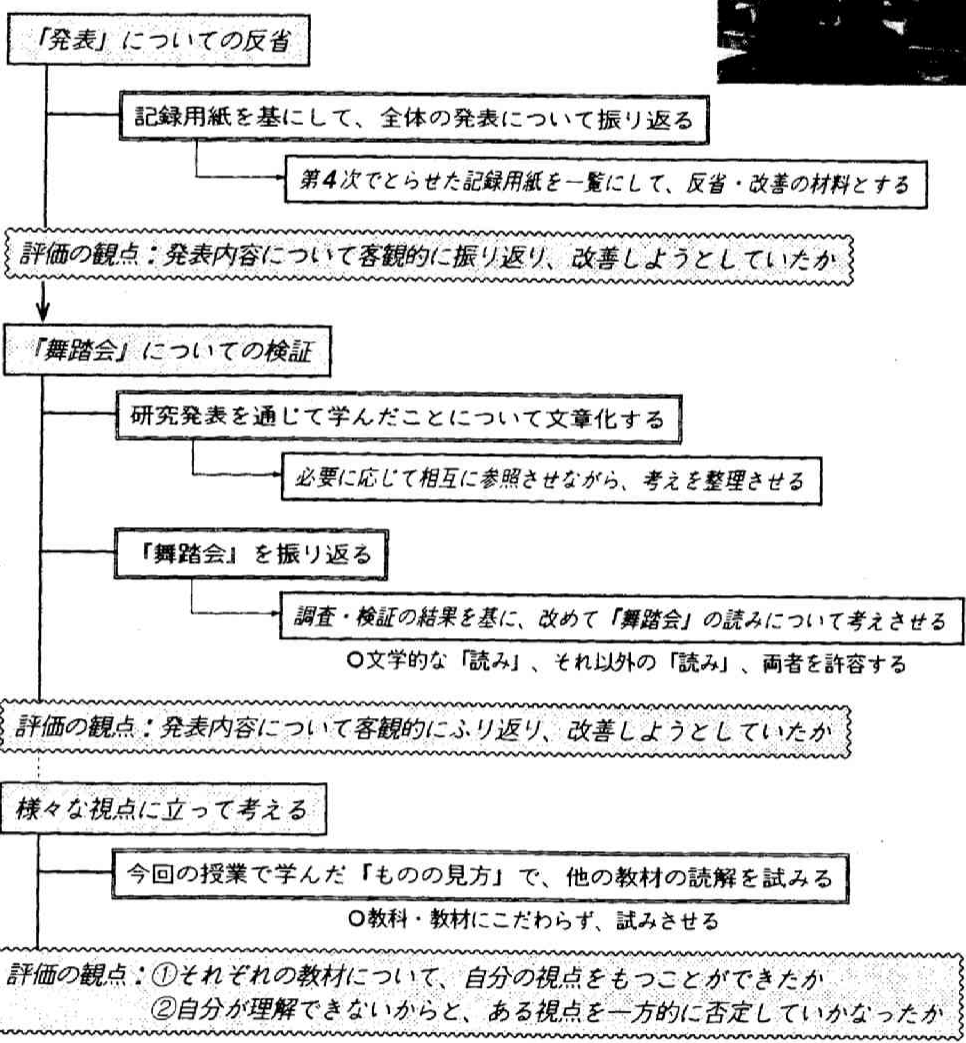
④ 明治時代のアイスクリームについて
瀬戸・藤田・金子・米倉

⑤ 鹿鳴館について
石田・大崎・佐々木・西村

⑥ 舞踏会について
河田・千藤・藤山・落山



《第5次 まとめと発展》(10・11時)



★授業後の生徒の感想

- ・今までの国語の授業の中ではじめてのやり方であった。国語という授業の中で、ただ本文を読み、その文章を理解するだけでなく、いろいろな点から問題を提起し、その歴史的事実や、世界情勢などを調査し発表していくところは、よいと思った。(三年男子)
- ・一回読んだだけでは分からなかったところが、みんなの授業のおかげで、よく理解できた。班をつくってみんなで行った授業は小学校以来だったので、わくわくしながら、みんなの発表がきけた。眠くもならなかった。(三年女子)

6. 評価の観点（事後評価）

- ① 有効な情報収集を行い、考察整理した上で、聞き手に正確に伝えることができたか。
- ② 班活動による調査・発表を通して、自己評価・相互評価を行い、総合的にものごとを思考し、判断する能力が身に付いたか。
- ③ 自由な着想から作品についての「様々な視点」を見出し、自他相互の考えを理解し、尊重し合うことができたか。
- ④ 問題意識をもって授業に参加し、発表を通して互いの言語能力を高め合えたか。

7. 考察

「様々な視点に立って考える」ことを意図した指導計画を作成・実施するに当たって、班別学習による調査・発表という形態を取った。調査課題の設定の仕方や、班編成の工夫（クラスの特質による柔軟性、人的配慮など）を加えたため、生徒は積極的に参加し多様な展開が見られた。このことは、学習後の生徒の感想などからも分かる。

調査対象については、人物の心理について着目した者、事物について着目した者、歴史的な事象に注目した者等、多岐にわたった。芥川の作品であるということから、生徒は読解に際して先入観をもち、いわゆる文章理解や小説読解を目的としたポイントを挙げることが予想されるため、それらにとらわれずに自由に着想してよいと指示することが必要である。このようなアプローチの工夫によって、生徒の「様々な視点」に基づく、興味をもった項目が挙がってきた。社会の変化を的確に把握するためにも様々な角度から物事を見ることが大切である。

主体的な学習活動を支えるためには、自ら情報を収集し、それを活用する態度を養っていくことが大切である。そのための基本となるのが、図書館をはじめとする各種施設の活用である。言語活動を通じて収集した情報を記録し、整理し、それを活用することができてはじめて、主体的学習課題の設定が可能となってくる。調査に際しては、学校図書館で資料を探す他、地域の図書館や博物館で資料を探した者、中にはパソコン通信で資料を探した者などもあった。資料としては、「東京日々新聞『明治ニュース大事典』」、「復元 鹿鳴館・ニコライ堂・第一国立銀行」、『『ニュースで追う明治日本史発掘③』河出書房新社』、『『写真に見る日本洋装史』遠藤武・石山彰著 文化出版局』などが挙げられた。

発表の方法では、プリント類を中心に、ビデオや紙芝居といった資料も活用された。発表において、自分の視点を明確にするとともに、他者のそれを知り、比較することで、広い視野をもつことができる。発表での工夫は、自己開示の積極性であり、異なる視点を主体的に認めようという姿勢であるはずだが、生徒の多くが、自分の発表には工夫を凝らし熱心であったが、他の者の発表となると注目する姿勢に欠けたり、質問など発言が少なく消極的であった。このことから、集団の中において他者の理解や、異なる視点の拒絶姿勢が顕著な生徒像が見えてきた。このことは、学校における評価が個人の能動的成果に向けられ、受動的姿勢や、集団との関係に向けられていない傾向の結果によるものであるかもしれない。

今回の試みでは、内容を理解した「結果」についてよりも、理解していく「過程」、さらには今後発展していく「姿勢」を重視し、研究主題に達することを目指した。

発展として、生徒が自己学習として文章や他の教材を読む際に、「様々な視点に立って考える」という同様の試みを行わせることも、一つの方法である。

2 「男女の愛」をテーマとして社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する古典指導の工夫

1. 単元 古典に親しみ魅力を発見する－男女の愛を見つめて
2. 教材 「梓弓」(『伊勢物語』第二十四段)
「朱買臣の妻」(『漢書』六十四上「朱買臣伝」より)

3. 単元の目標

- ①身近なテーマで古典作品を鑑賞し、古典に親しむ。
- ②多面的な授業展開を工夫し、主体的な学習態度を養う。
- ③古文と漢文を併せて学ぶことにより、日本と中国とのつながりに目を向ける。
- ④古典の魅力を発見し、古典を生涯学んでいく態度を培う。

4. 単元設定の理由

情報化社会が進む現在、テレビ、パソコンなど視覚に直接訴えるものがもてはやされる反面、高校生の活字離れはますます進んでいる。特に古典は、言葉・文法に対する抵抗感や古典と現在の生活との接点が見出だせないことで、苦手意識が強く自主的に読まれることがほとんどない。しかし古典の中に描かれているものの見方・感じ方・考え方には、現代人と変わらない普遍的な面も多く人生の指針となる内容もある。言葉の壁さえ越えられれば、高校生にも充分親しめ、共感できるものである。それが理解できれば、生徒も古典を学ぶことに価値を見出だすはずである。また、古典には、現代人とは異なる独特な発想や感覚もあり、新鮮な発見をすることもある。社会が激しく動き、価値観が多様化している現代社会の中で、現代とは異なるものの見方・考え方を知ることは、視野を広げ、人生を豊かにする態度を育てることにもなるはずである。

情報化とともに現代は、国際化も進んでいる。その中で、自国の伝統的な文化に関心を持ち、それを理解しようとする態度を育てることは、他国の文化を理解する態度を育てるためにも大切なことである。

このような観点から、「古典講読」の授業としてこの単元を扱っていきたい。古典ばなれした高校生が関心を持ち、古典の中から現在の自らの生き方を見つめていく契機となる授業となるようにしたい。

この単元では、「男女の愛」をテーマとして古典を学んでゆくことにした。「男女の愛」は生徒にとって最も身近な問題であり、関心のあるものである。まず、このテーマで心理的な垣根を低くして、生徒も容易に授業に参加できるようにした。

教材としては、古文では「梓弓」(『伊勢物語』第二十四段)、漢文は「朱買臣の妻」(『漢書』六十四上「朱買臣伝」より)を用いる。「梓弓」は、短い作品ながらドラマティックな展開をもち、運命のいたずらに弄ばれた男女の微妙な心理が描かれている。「朱買臣の妻」も同じく男女の思いのすれ違いが悲劇を招く話である。この両方の話はそれぞれの男と女の立場に立って様々な解釈や想像ができ、高校生も関心と意欲をもって学習に取り組むことができると考え選定した。

同一のテーマで古文と漢文を併せて学習するが、「朱買臣伝」は、我が国でも『唐物語』『十訓抄』『枕草子』に翻訳・紹介されており、日本文化と中国文化との関係の深さを学ぶことも

できる。国際化社会と言われる現在、外国文化を我が国がどのように受け入れていったのかを考察することは、今後の我が国の変化を考える上でも重要と考える。

情報化社会が進む中で多くの情報があふれ、自ら主体的に情報を取捨選択する能力を身に付けることが大切である。そのためには、自ら考え判断する積極的な学習態度が必要となってくる。授業の形態としては、グループ学習を中心として行っていく。グループ学習では、生徒の思考力・創造力を伸ばし、関心と意欲をもって学習するためにプリント学習やシナリオの作成・ミニ討論をさせる。音声言語・表現活動・内容理解の各方面から多面的に取り組みたい。古文では、「梓弓」の話をもチーフとしてシナリオを作成する。漢文では、主人公の朱買臣とその妻の行動や心情について討論形式で考えを深める。シナリオの作成やミニ討論によって自分の生活レベルにかなり近付けて問題を考えることができるようになるものとする。

これらの授業を通し、人間には多様な生き方や考え方のあることに気付いた生徒は、自らの生き方を積極的に考え判断していくようになる。そして、このように自己の生き方を見つめ直す中から社会の変化に主体的に対応する能力も身に付くと考える。加えて古典を読解・鑑賞することを通して古典に深い関心を持ち、生涯を通して古典を師として友として親しむことができるようになればよい。

5. 指導計画（第2学年対象 配当時間10時間）

第1時	導 入	個別プリント学習 作品導入・内容の確認
指 導 事 項	学 習 活 動	留 意 点
導入のための発問	<ul style="list-style-type: none"> 「待ち合わせをしているとき、どのくらいの時間待っているか。」 「何の音沙汰もなくなった恋人を、どのくらい待っているか。」 	身近な話題から入り、生徒に関心をもたせる。
作品への導入	<ul style="list-style-type: none"> 「待つということができなくて悲劇が起こったという話がある。」 （『伊勢物語』第二十四段「梓弓」を紹介する。本文はプリントで配布） 	本文の語句・和歌の修辭法文法などについては補注での説明のみにする。
読み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 範読 ・ 斉読 	歌物語であるから、特にそのリズムに注意して読む。
内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・ 設問（設問プリント配布） 登場人物の確認。 場面設定の確認。 話の流れの確認。 	設問で全体の輪郭をつかませる。

第1時の評価の観点

- ・正確な音読ができたか。とくに和歌の読みはできたか。
- ・プリント学習に真面目に取り組んだか。
- ・内容確認の設問に正しく答えられたか。

評価の方法

正しく文節に区切って読めるか。
プリントを提出させて点検する。

第2時

展開1

個別プリント学習→グループ学習 内容の確認

内容の理解

- ・口語訳をプリントで確認。
(口語訳のプリントを配布)
- ・口語訳を読ませる。理解したか確認。

口語訳を声を出して読むことによって、作品のふんいき・話の筋を確認させる。
プリントには、当時の結婚形態についての説明文を載せるが、詳しくはふれない。

討議の準備

- ・設問(設問のプリントを配布)
- ア 女が新たな男と再婚したことについて。
- イ なぜ女は戸を開けなかったのか。
- ウ なぜ男は立ち去ろうとしたのか。
- エ 男の姿を追いかけていった女の本心は。
- オ 女は最後には死んでしまうが、この話の結末をどう思うか。

グループ討議の前に、設問を個別に考える。
和歌に込められた心情を理解する。

グループ討議

- ・内容のポイントをグループ内で討議する。

グループ分けの際にはクラスの間関係にも留意する。
1グループは6~7名とする。
結論を出すまでの話し合いの過程を大切にさせる。

第2時の評価の観点

- ・話の筋がはっきりと分かったか。
特に歌の内容を理解しているか。
- ・歌物語の特徴と歌の役割が理解できたか。
- ・自分で考えることができたか。
- ・グループ学習に積極的に参加できたか。
- ・グループの全員が参加できているか。

評価の方法

数人を指名して確認する。
プリントを提出させ、設問に答えているかを点検する。

第3時・第4時

展開2・3

グループ学習 前時のまとめ・シナリオ作成

内容の理解 まとめ

- ・(各グループで意見をまとめたものをプリントして、全員に配布)
- ・指導者が簡単に批評・まとめをする。
- ・シナリオの作り方の説明
シナリオの具体例を提示し、シナリオ作り用のプリントの説明をする。

著しく意見が食い違った場合は、発表させる。

シナリオ作成 準備

いきなりシナリオができるものではない、こちらで作成したプリントに沿って作らせる。

理解の深化・
応用
シナリオ作成

- (シナリオ作り用のプリントを配布)
- ・前時のグループの話し合いの結果をもとにしてシナリオを作る。
- シナリオ作り
- シナリオはある程度指導者が枠を作る。時間があれば、シナリオに使うBGMやキャスト
ソングを考えさせてもよい。
- シナリオの場面設定は次の2場面とする。完成できない場合には期限を設けて提出させる。
- ア「女の家の前」の部分
イ「清水のあるところ」の部分
- ・完成したシナリオを提出。全グループのシナリオを印刷し冊子にする。

第3・4時の評価の観点

- ・シナリオの内容が原文の内容からずれていないか。
- ・グループの全員が参加しているか。
- ・シナリオの内容に創意工夫があるか。

評価の方法

シナリオの内容を点検。
机間巡視により話し合いの状況を観察する。

第5時

展開4・まとめ

プリント学習→個別 朗読劇発表・自己評価

理解の深化・
応用
朗読劇発表

- ・各グループ4～5分で発表する。グループ全員に役割を割り当てる
- ・各グループの発表に対して生徒が評価をする。(評価用のプリントを配布) なるべく良い点に着目しコメントを書くようにする。

『梓弓』シナリオ評価(他の班のシナリオを聞いて)

()班

- ① 話の筋はきちんとしていたか。
- ② セリフは自然な会話になっているか。
- ③ セリフの読み方はどうか。
- ④ 効果音は劇の内容に合っているか。
- ⑤ 音楽は劇の内容に合っているか。

⑥ 全体の感想
良い点

気になった点

()組 ()番 氏名()

まとめ

- ・最後に登場人物の心情をよく考え、和歌の読み方に注意して朗読する。
- ・自己評価(自己評価用のプリントを配布)
古文の授業の自己評価。記号による評価だけではなく必ずコメントを書く。

第5時の評価の観点

- ・グループの全員が参加しているか。
- ・他のグループの発表を聞いていたか。
- ・ここまでの授業が楽しめたか。
- ・これまでの授業を省みることができたか。

評価の方法

各自の役割をきちんと果たしているか観察する。
 評価用のプリントを点検する。
 簡単に感想を聞く。

第6時

導入

一斉授業 作品導入・中国と日本との関係

作品への導入

- ・「古文の『梓弓』と同様に待つことができず不幸になった女性の話が中国にもある。」(「朱買臣の妻」を紹介)
 - 中国(漢文)への目を向けさせ関心をもたせる。
 - 「朱買臣の妻」の本文を模造紙に書きそれを黒板に掲示する。

読み

- ・範読
 - 黒板に掲示した本文を読む。
- ・斉読
 - 漢文訓読の簡潔でリズムカルな文章を味わわせる。
- ・指名読み

書き下し文

- ・訓点を説明する。
 - 訓点により原文をそのまま日本の文章として読むことができることに気付かせる。
- (原文と書き下し文、語句・句法を載せたプリントを配布)

中国と日本との関係

- ・漢字とかなの関係にも簡単に触れる。
 - 日本と中国との密接な関係に気付かせる。
- ・『唐物語』の紹介。

第6時の評価の観点

- ・漢文がリズムカルに読めるようになったか。
- ・中国と日本との関わりに関心をもてたか。
- ・訓点の素晴らしさを理解できたか。

評価の方法

斉読・指名読みで確認。

第7時

展開1

個別プリント学習 内容確認

内容確認

- ・話の内容確認のために、あらすじを追った問を設けたプリント配布
 - 話の展開をしっかりと把握させる。
- 設問
 - 登場人物の確認。舞台場所の変化。各段落の要点をまとめ。
- ・訳のプリントを配布
 - 話の内容を再度確認する。

第8時

導入

個別プリント学習 作品導入・内容の確認

内容理解

・設問のプリントを配布

原因は「之」ばかりではなくもっと深いことに気
付かせる。

設問

ア「妻之を羞ぢて去らんことを求む」から
妻が離婚を求める理由を考える。

生徒の自由な発想を大切にす。

イ「買臣留むる能はず。即ち去らんことを
聴く。」の朱買臣の気持ちを考える。

ウ「買臣の飢寒するを見て呼びて之に飯飲
せしむ。」の妻の気持ちを考える。

エ 朱買臣が出世したポイントを考える。

オ「居ること一月、妻自經して死す」とあ
るが、一か月間の妻の気持ちの変化を考
える。

「梓弓」と「朱買臣」との結末の違いを知る。

第7・8時の評価の観点

- ・書き下し文の段階であらすじが分かったか。
- ・ポイントの理解と内容を深く考えることができたか。

評価の方法

プリントの点検。

第9時

展開3

個別プリント学習→グループ学習 ミニ討論

理解の深化・
応用

ミニ討論準備
手順方法説明

・設問のプリントを配布する。

設問

出世した朱買臣が元の妻やその夫を自分
の屋敷において養うことについて。

{ 親切からか。 (A案)

{ 嫌がらせからか。 (B案)

必ずどちらかの案の立場に立って考えること。

・ビデオを使って、ミニ討論の仕方を教える。

ビデオ

実際にミニ討論を行っているものを指導者が制作し見せる。(5分程度)

ミニ討論

①クラスをグループに分ける。グループは古文の班と同じ。6～7名

②グループ内を3つの役割班に分ける。

A案の班 2名 B案の班 2名 司会・記録・時間の班 2名

③ミニ討論は10分程度とする。(記録・まとめの時間も含めて)

④勝ち負けの判定は特にしない。討論の記録の者は経過と結果をまとめる。

・①～④を行う。

机間巡視して必要ならアドバイスをする。

ミニ討論実施

ミニ討論実施

- ・⑤⑥を行う。
- ⑤各グループのまとめたものを集めて、印刷して配布する。
- ⑥2～3グループ発表させてもよい。指導者が寸評してまとめる。

まとめ

- ・自己評価（プリント配布）
漢文の学習についてのもの。
記号による評価だけでなくコメントを書く欄も設ける。

全体のまとめ

- ・自己評価（プリント配布）
古文・漢文の学習全体を通してのもの。 時間を十分とるようにする。
記号による評価だけでなくコメント・ 正直な感想・評価を書くように注意する。
感想文を書く欄も設ける。感想文は、
項目を設けて書きやすくする。

第9・10時の評価の観点

- ・グループ学習に積極的に参加できたか。
- ・複数の視点から物事を考えることができたか。
- ・これまでの学習活動を省みることができたか。
- ・自分の意見を相手に分かるように主張できたか。
- ・古典への関心と授業に対する意欲がもてるようになったか。

評価の方法

- プリントの点検。
- 自己評価の点検。

6. 評価の観点（事後評価）

- ① プリント学習やグループ学習での話し合いを通して、場面展開や人物の心理変化をつかんで積極的に本文の読解・鑑賞を進め、作品に親しめたか。
- ② シナリオ作成やミニ討論などを通して積極的に自分の意見を主張したり、他人の考え方や価値観を受け入れたりする態度を身に付けられたか。
- ③ 古文と漢文を統一テーマで学習することで、日本と中国の文学の密接な関係について考察を深めることができたか。
- ④ この学習を通して、古典に親近感をもつとともに、自らの生活や人生について見直す契機とすることができたか。

評価するときの注意点

生徒の自己評価とこれまでの各時での評価を総合して評価する。全体の中での相対的な評価だけではなく、個人内の到達度による評価もして自分の進歩にも気付かせる。

7. 考察

今回の授業では、古典に対して親しみをもつことや主体的に学習にかかわることに主眼を置いた。

教材は古文が「梓弓」、漢文が「朱買臣の妻」である。この二つの作品は、共に「男女の愛」をテーマとしている。このテーマは、生徒たちにとっても親しみやすく、実際に最初の授業から簡単な感想や意見を発言する者が結構多くいた。例えば、『梓弓』では、「なぜ女は男の後を追いつけたの。」「男の行動が良く分からない。」など、こちらから質問をしていないのにもかかわらず反応があり、導入で興味や疑問をもたせるという点で成果があった。

「梓弓」のシナリオ化では、生徒が考えやすいようにプリントを工夫し、適宜アドバイスを与えた。生徒にとって創作を共同で進めていくのはかなり難しいことであったが、作業が進むにつれて楽しみながら意欲的に取り組むようになっていった。作品を朗読劇で発表したことも生徒に大きな満足感と成就感を与えた。また、他の班の発表にも真剣に耳を傾けていた。「朱買臣の妻」のミニ討論では、本格的な討論の形ではできなかったが、古文である程度話し合いの経験をしてきたためか、あまりアドバイスを与えなくても生徒が自主的に役割分担や意見の調整に取り組んだ。一つの事柄でも人によって様々なとらえ方があることを知り、新鮮な驚きと発見があったようだ。また他人の意見を聞くことで視野を広げることができたと思う。正解・不正解といったとらえ方ではなく、意見の違う他の生徒に自分の意見を理解してもらえたということも、大きな喜びとなり励みになったようである。

今回の試みでは、古典に対して親しみをもつという点では、かなり成功した。しかし他人の意見と自分の意見とを考え合わせ一層の深化を図るという点については不十分であった。これには最近の人間関係の希薄化や一方的、瞬間的な情報をそのまま受け取り、自分で吟味判断しないという問題が関係している。今後このことにどう取り組むかという課題ができた。このことも考慮に入れながら古典作品を通して現代の高校生が自分の生き方を考えることができる授業をしていきたい。

生徒の感想

☆あーいった授業の形式はうちの学校に来て初めてだったので、びっくりした。それにグループになって他人の意見なども聞けて「あーこんな意見もあるんだ。」と思いました。同じものを見ても、人それぞれ全く違う受け止め方をするのだと思いました。(女子)

★「梓弓」のシナリオは、初めはそんなことはできないと思っていたけれど、いざやってみるとけっこうはまったと思います。「朱買臣の妻」は最後の一か月の妻の気持ちが良く理解できなくて困りました。(女子)

☆今も昔もラブストーリーの基本はかわらないんだなと思った。昔の話っぽくなく現代にありそうなお話だったのでびっくりした。古文もあんがいおもしろいなあと思った。(女子)

★グループでやった時、皆の気持ちがいまいき聞けなかったのが残念。今度やったら、皆の意見を聞こうと思う。だんだん古典が楽しくなってきた。(男子)

☆僕は古文・漢文という、昔の出来事について学ぶ授業が好きだ。今を生きている自分にとって、自分が生まれる前にどんな人物が学問やいろいろな話などを残しているかを知るのもなかなかいい。古文と漢文を二つに分けず、一つの授業でやったことは良かった。自分自身、好きな分野の勉強をすることはとてもいいからだ。高校を卒業しても、まだ古文や漢文を勉強しているだろう。授業の時間にできなかったことをやるために続けていこうと思う。(男子)

3 言葉を見つめ直すことにより、社会の変化に主体的に対応できる能力を育成する現代語の指導の工夫

1. 単元 「現代語」を見つめ直す
2. 教材 『現代の若者の「言葉」』（斎賀秀夫），『ら抜き言葉は乱れではない』（城生 佰太郎），『いま日本語について考えるべきこと』（大岡信），『枕草子第186段』（清少納言），『蜷縮涼鼓集』（鴨東 萩父），『口語と詩歌の一致について』（島崎藤村），『天声人語』（朝日新聞），生徒による「現代の若者言葉」の調査結果 他
3. 単元目標
 - ①身近な言葉に対しての興味や関心をもつ。
 - ②目的や場面に応じた適切な話し方や言葉遣いを身に付けようと努力する。
 - ③今後の言葉の変化に主体的に対応してゆく自信をもつ。

4. 単元設定の理由

社会の変化に伴い、言葉はたえず変化している。言葉の変化に対しては、どの時代の知識人たちが概して批判的であり、保守的な意見を表明してきた。しかし、そのこととは無関係に、やはり言葉は変化してきた。そして、これからも間違いなく変化し続けてゆくものとする。大切なのは、言葉の変化の善悪を問題にすることではなく、言葉が変化するものであることを理解し、その変化に主体的に対応する能力を養うことである。

多くの生徒たちは、「見れる」「食べれる」といった<ら抜き言葉>をはじめとし、「超むかつく」「ブルー入ってる」といった<若者言葉>を日常生活で頻繁に使っている。それらは、意識して意図的に使われる場合もあるが、無意識に使われている場合も極めて多い。現在の生徒の言葉に対する認識は、まさに不足していると言わざるをえない状況である。

5. 指導計画（第2・3学年対象、配当8時間）

指導事項	
1. 「現代の若者言葉」に対する興味・関心をもたせる。	
第1・2時 導入	<p>学習活動</p> <p>①現代の若者の言語生活に関する文章やデータを読み、それに対する賛否を表明し、意見を自由に述べる。</p> <p>初めに若者の言語生活に対して批判的なもの、次に肯定的なもの、最後に再度批判的なものを与え、それぞれの過程で意見の変化が生じるかどうかに着目する。</p> <p>②学習活動①をふまえて、若者の言語生活に関しての自分の感想を文章にする。</p> <p>③「現代の若者言葉」と考えられる語と、その語義を複数挙げる。</p>
	<p>指導上の留意点</p> <p>①使用する題材は論旨が明確で生徒にとって理解しやすいものを選ぶ。また、意見の表明については、生徒の直感に頼る程度のものでよい。</p> <p>②「LL教室」等のアナライザー機能を利用した授業展開も可能である。</p> <p>③語と語義は各自の言語生活を振り返り、5～10語程度挙げさせる。</p>

そこで、彼らが使用している言葉を見つめ直すことにより、将来の言葉の変化にも主体的に対応できる能力を養うための単元をここに設定した。具体的には、生徒に「現代の若者言葉」を調査させることにより、ふだん何気なく使っている自分たちの言葉に対する興味や関心を高めさせることに力点をおいた。さらに、調査結果を分析する過程で、これまでは単なる〈若者言葉〉であると見過ごされてきたものの中に、〈新方言〉と呼ばれる言葉が存在している事実も、あわせて理解させたい。〈新方言〉の存在を知ることが、生徒にとって驚きであると同時に、言葉が変化してゆく過程を実際に見ることでもある。このことが契機となり、生徒自身が独自の日本語の未来の姿を予測することも可能になると思われる。

また、生徒もやがては、同年代の友達同士だけではなく、広く社会の人々に通用する話し方や言葉遣いが要求される年代となる。そのため、目的や場面に応じた適切な話し方や言葉遣いを、身に付けておくことが必要となる。そこで、〈ロールプレイング〉や〈外国映画の吹き替え〉などの演習を通じて、可能な限りこれを習得させてゆきたい。短時間での会得は困難であるが、自己の話し方や言葉遣いに注意を払い、目的や場面を考慮して言葉を用いるよう努力すること自体に、その意義は十分あると考える。

今後、生徒たちの成長とともに社会は変化し、言葉も変化してゆくものとする。その時、彼らがどの言葉を選び、それをどのように活用してゆくかを決定するための基準を、この単元を通じて打ち立てることを期待している。そして、そのことが同時に、将来の言葉の変化に対応してゆくための、自分なりの方法論や言語観を確立することにもなると確信している。

※新方言＝近年新しく出現し、共通語や方言・俗語とも異なり、まとまった地域性をもって、主に若い世代に向け増えている言葉。

<p>-----評価の観点-----</p> <p>1. 「現代の若者言葉」に対する興味や関心をもつことができたか。</p> <p>【 評価項目 】</p> <p>○現代の若者の言語生活についての文章の論旨に対する自分の考えを表明している。</p> <p>○「現代の若者言葉」に対する自分の考えを文章にしている。</p> <p>○「現代の若者言葉」を複数挙げている。</p>	<p>-----使用する教材-----</p> <p>★批判的なもの</p> <p>『現代の若者の「言葉」(斎賀秀夫), 『いま日本語について考えるべきこと』(大岡信)</p> <p>◎肯定的なもの</p> <p>『ら抜き言葉は乱れではない』(城生佰太郎)</p>			
<p>セルフチェックチャート〔生徒による自己評価〕</p> <table border="1"> <tr> <td data-bbox="199 1735 502 2007"> <p>《ホップ》 🍀</p> <p>1. 現代の若者言葉に対する興味や関心をもっているか?</p> </td> <td data-bbox="518 1735 885 2007"> <p>《ステップ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する洞察を試みることはできるか?</p> <p>現代の若者言葉に対する興味や関心をもつことはできるか?</p> </td> <td data-bbox="901 1735 1380 2007"> <p>《ジャンプ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する自分の意見をもつことができた!</p> <p>いろいろな言語観の存在に気が付くことができた!</p> <p>与えられた題材に取り組む努力ができた!</p> </td> </tr> </table> <p>はい _____</p> <p>いいえ _____</p>		<p>《ホップ》 🍀</p> <p>1. 現代の若者言葉に対する興味や関心をもっているか?</p>	<p>《ステップ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する洞察を試みることはできるか?</p> <p>現代の若者言葉に対する興味や関心をもつことはできるか?</p>	<p>《ジャンプ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する自分の意見をもつことができた!</p> <p>いろいろな言語観の存在に気が付くことができた!</p> <p>与えられた題材に取り組む努力ができた!</p>
<p>《ホップ》 🍀</p> <p>1. 現代の若者言葉に対する興味や関心をもっているか?</p>	<p>《ステップ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する洞察を試みることはできるか?</p> <p>現代の若者言葉に対する興味や関心をもつことはできるか?</p>	<p>《ジャンプ》 🍀</p> <p>現代の若者言葉に対する自分の意見をもつことができた!</p> <p>いろいろな言語観の存在に気が付くことができた!</p> <p>与えられた題材に取り組む努力ができた!</p>		

指導事項

2. 「現代の若者言葉」の調査

学習活動

④調査票を作成し、それをもとにした級友への面接調査を行う。(1名以上のサンプリング)その後、A・Bどちらかの調査を選んで行う。

◆使用した面接調査票の例

Q1 「ホチキス(スタイプラー)」で使う金網のめがねのことを誰が何といっていますか?

ア _____

Q2 あなたは自転車のことを「チャリンコ(チャリ)」といっていますか?
(ア、B、このいずれかに○を)

ア、いう B、いわないが、知っている C、知らないし、いわない

Q2で「ア、いう」に○をつけた方へ

「チャリンコ(チャリ)」ということばを、もしあなたが会社の面接試験を受験するとなら、使いますか? (ア、Bのどちらかに○を)

イ、いう B、いわない

「チャリンコ(チャリ)」ということばを、友人との世間の会話で使いますか?
(イ、Bのどちらかに○を)

イ、いう B、いわない

指導上の留意点

④調査A・Bの選択は、生徒の実態や状況に応じて行う。

④選択課題Bについては、同一都道府県内の比較的距離をおいた地域どうして実施することが望ましい。
例：多摩地区と下町地区など(東京都)

④選択課題Bについては、パソコン通信を利用した調査も可能である。

指導事項

3. 「現代の若者言葉」の調査結果の分析。

4. 言語や言語観に関する考察。

学習活動

⑤グラフを用いて、調査結果の図示を行った後、近接意味をもつ語どうしの同時分析と図示を行う。さらに、既存の調査と同じ項目についての比較検討も行う。

⑥学習活動⑤を通じて、「現代の若者言葉」の中にも新方言が存在していることを理解する。

⑦異なった時代の様々な日本語観を述べた文章を読み、言語の流動性を理解する。

⑧学習活動⑥～⑦を通じて、言語がたえず変化してゆくものであることを理解する。そして、変化の要因を考察するとともに、日本語の未来の姿を予測する。

指導上の留意点

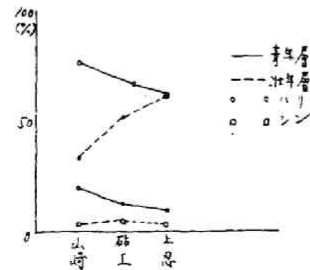
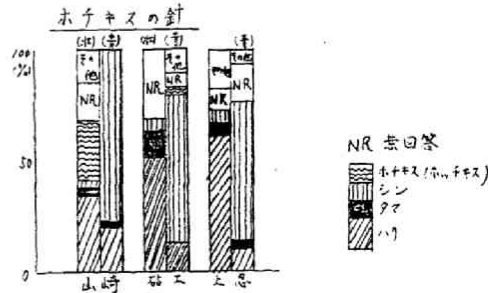
⑤市販のソフトを利用したパソコンでのデータ処理も可能である。

⑥若者の言語生活が、必ずしも共通語であるとは限らないことを指摘する。

⑦フランスやドイツといった他国民の言語観にまで言及することも可能である。

⑧知識の習得に偏ることなく、自分の考えを文章や口頭で発表させる。

◆調査結果の図示す(グラフ)の例



評価の観点

評価の観点

2. 「現代の若者言葉」に関する適切な調査を実施することができたか。

【評価項目】

- 調査の目的を正しく理解している。
- 調査の方法を正しく理解している。
- 主体的に調査に取り組んでいる。

選択調査の方法

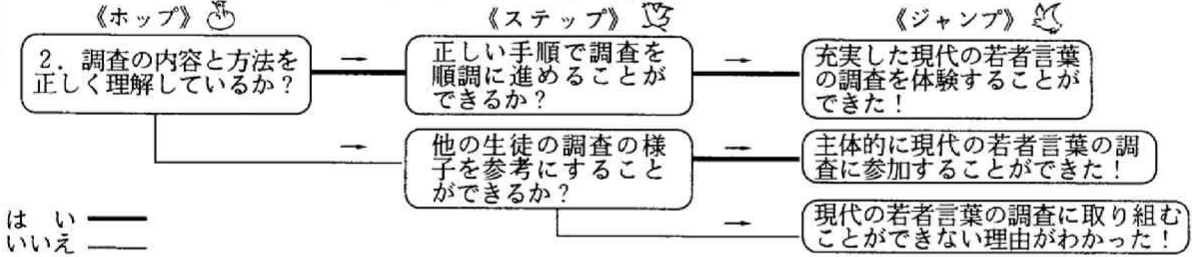
A. 年代を替えた調査

友人や知人とその親世代への面接調査。
(2名以上のサンプリング)

B. 世代・地域を替えた調査

友人や知人とその親世代、並びに協力校の生徒とその親世代への面接調査。(4名以上のサンプリング)

セルフチェックチャート〔生徒による自己評価〕



評価の観点

3. 調査結果を正しく分析することができたか。

【評価項目】

- グラフを用いて調査結果を効果的に図示している。
- グラフから正しい分析結果を導き出している。

4. 言語の流動性を理解することができたか。

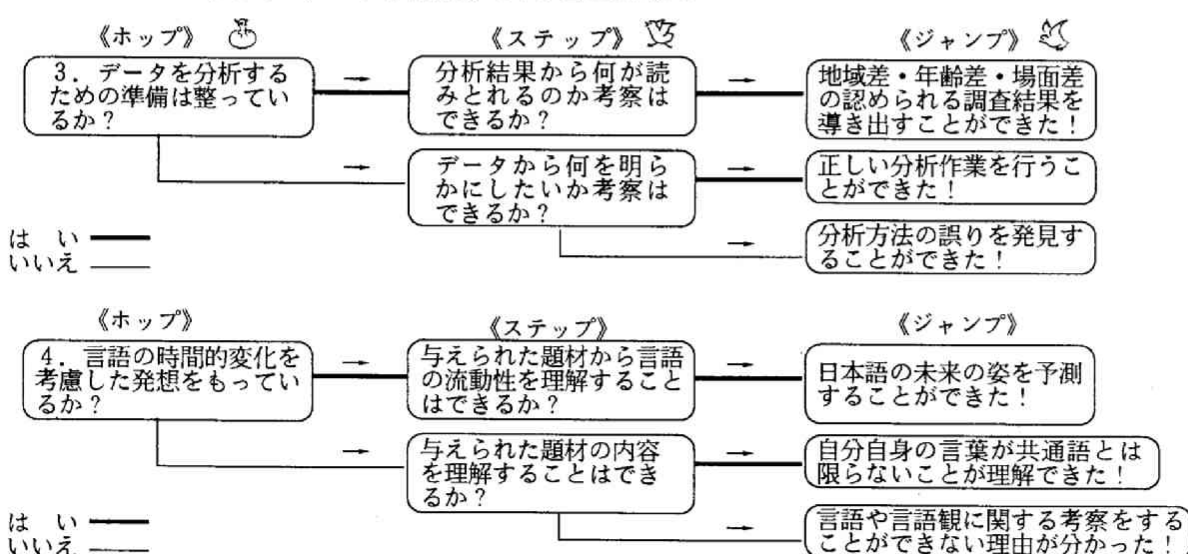
【評価項目】

- 「現代の若者言葉」の中にも新方言が存在することを理解している。
- 時代によって言葉が変化することを理解している。
- 日本語の未来の姿を予測している。

使用する教材

『枕草子第186段』(清少納言),
『蜩縮涼鼓集』(鴨東菰父), 『口語と詩歌の一致について』(島崎藤村), 『天声人語』(朝日新聞)

セルフチェックチャート〔生徒による自己評価〕



――評価の観点――

6. 目的や場面に応じた話し方や言葉遣いを身に付けることができたか。

【評価項目】

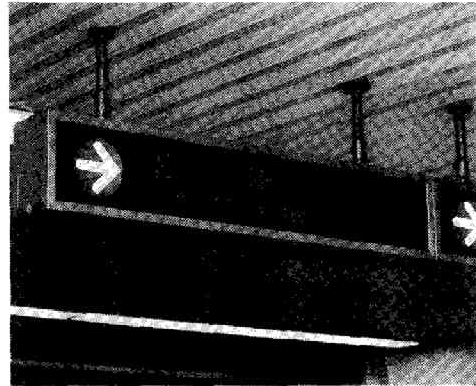
- 演習の目的を正しく理解している。
- 演習の方法を正しく理解している。
- 積極的に演習に参加している。

6. 言葉の変化に対応してゆくための方法を考え、文章にすることができたか。

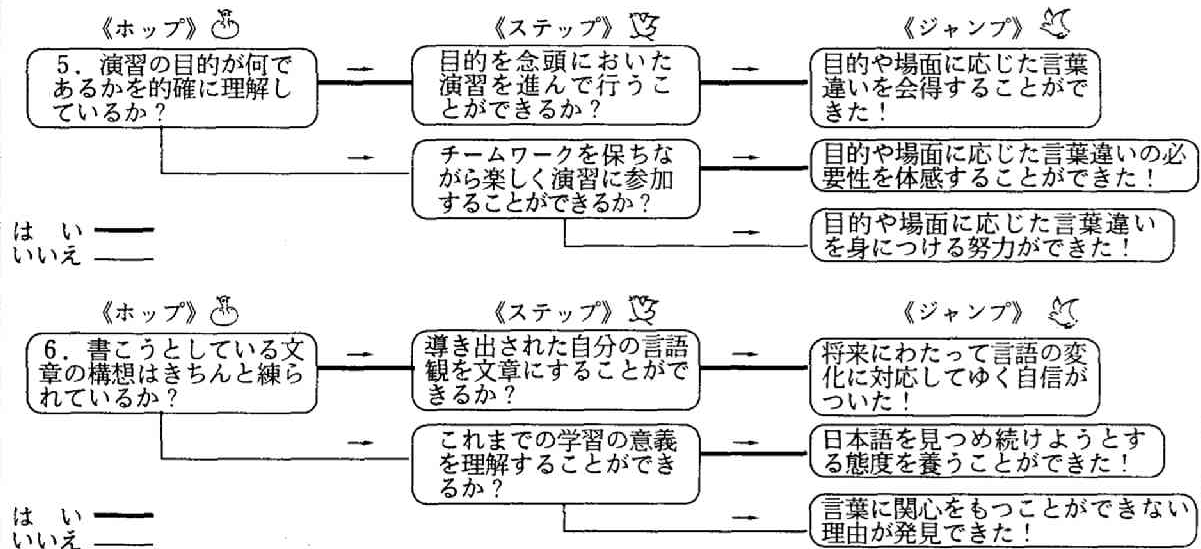
【評価項目】

- 言葉の変化に対応する方法を考えている。
- 適切な文章を書いている。

◆定着しなかった新語の例



セルフチェックチャート〔生徒による自己評価〕



第1・2時の導入部で、若者の言語生活に対して批判的な文章を二度読ませたことは、生徒の言語に対する興味・関心を喚起させることに功を奏したと思われる。筆者の主張に対し、当初否定的な意志を示した生徒も、次には肯定にまわる等、授業に「動き」が多々見られた。ただし、何ら深い考えもなく、「友人が肯定の方に行ったから」という理由だけで、自分の立場を変えてしまう者もいた。

調査に関しては、生徒が日頃から俗語と思っていた語が、実は新しい方言の一種であるという「驚き」を導き出せた様子である。しかし、サンプリング量が十分でなかったことや、余り明瞭な地域差が観察されなかったこと等、調査項目の選定や調査方法に今後の課題を残した。

＜ロールプレイング＞については、生徒は非常に熱心な取り組みの姿勢を見せた。「チョーなんて面接試験では言わないよ」などと授業前には豪語していた生徒も、実際にはいわゆる「尻上がりイントネーション」で話をしていた。この演習が、生徒自身の日頃の言語生活を省みるきっかけとなったと思われる。＜外国映画の吹き替え＞でも、生徒が楽しみながら授業に臨む姿勢が観察できた。生徒が主体的に参加する授業である。生徒が実際に取り組んでみて、「楽しく、ためになる授業でなければならない」とたえず考え、指導計画を立案してきた。

導入時においては、「言葉なんて、時代によって変わるもんだ」という、あたかもすべてを悟ったかのような意見もあり、指導者にとっては不安な一面もあった。しかし、言葉の諸相や変化が、具体的に眼前に現れるさまに新鮮な驚きを示す生徒の姿は、将来にわたって日本語を見つめ続け、言葉の変化に主体的に対応できる自信が、少しずつでも身に付いてきていることを実感させた。新設科目の「現代語」では、まだまだ未開拓な面が多い。今後も引き続き、さらなる検討を進めてゆきたい。

IV まとめと今後の課題

社会の急速な変化に応じて国語科の授業も改善を求められている。教師が生徒に教え込むのではなく、生徒の考えを深めていく過程を大切にするためには、教師の意識やものの見方を生徒の立場にさらに近付けていく必要がある。このことが、社会の変化に対応できる能力を育てることにつながると考える。今回の研究では、この点に主眼を置き、各班とも表現・理解・言語事項の各指導について総合的に創意工夫を図った。生徒の関心と意欲を大切にした主体的な学習活動を通して、柔軟な思考力や判断力を培うことを意図したものである。これらの点を踏まえて以下の研究実践を行った。

現代文班 生徒の主体的な行動と創造力をはぐくむ学習活動の展開を目指した。そのため、「様々な視点に立って考える」ことをテーマとし、「読む・書く・聞く・話す」の基本的な言語活動を組み合わせて実践した。グループ学習を通じて、生徒は互いに働き掛け合い、問題の選定・解決などでは多様な展開が行われ、ねらいとした柔軟な創造力の向上に成果が見られた。また、生徒も自分自身や他者への認識を深めることができた。

古典班 「男女の愛」という普遍的なテーマに沿って、古文と漢文を併せた授業展開とした。授業形態としては、個人学習とグループ学習を組み合わせ、さらに話し合いやシナリオ作成・ミニ討論等、多面的な学習とした。また、課題プリント等で生徒の個人内の到達度を評価するとともに、自己評価により生徒自らの進歩、考察の深まりなどを確認させた。古典の登場人物の生き方に現代人の生き方を重ね合わせることで、古典に親近感を抱かせ、古典の学習に取り組む楽しさを味わわせることができた。

現代語班 生徒に「若者言葉」を列挙させ、これらの言葉が「世代を超えて人々の間で用いられるのか。また意味が分かるのか。」について調査させた。普段使用している言葉が一般の大人に理解されるとはかぎらないという点を確認させた。演習として、相互の言葉の違いをチェックし合い、それぞれの場面にふさわしい言葉遣いについて学習した。また、古典から現代に至る言葉に関する評論・随筆を精選し、計画的に読ませた。言葉の変化を自覚するとともに、この変化にどう対処していくべきか、生徒の関心を高めることができた。

今後の課題について、各分野ごとに以下に挙げることにする。

1. 現代文班 生徒が異なる視点を獲得するためには、生き生きとした活発な授業展開が不可欠である。また、教材の精選、各時の事後評価後の補完指導等、生徒への働き掛けを充実させる必要がある。このため、評価の観点をさらに吟味し、複数の教材から生徒自身に選定させ、生徒自身に学習過程を計画させるなど、主体的な学習活動の充実を図りたい。

2. 古典班 多様な意見(情報)を収集・選択し整理して、新たな考えを生み出すための学習をさらに工夫する必要がある。また、文法・語句・思想などを扱う場合も、いかにして生徒の関心や意欲的な態度を持続させられるかが課題となる。今後も、テーマや教材を精選し、生徒が自らの生き方を見つめ直す契機となる学習を展開していきたい。

3. 現代語班 「現代語」を教育課程に定着させるため、今後も生徒の興味関心を引き出す授業展開や教材の開発が必要である。そのため、「教室」や「黒板」といった旧来の形態を見直し、様々な教材・教具を用いた〈新しい国語の授業〉を創造したい。また、生徒の言語能力を課外活動や進路指導の場で生かすよう、他の教科・領域との連携も視野に入れていきたい。